

首都圏の人呼び込む策 会議所主導で

元日本生命保険相互会社 代表取締役副会長

石橋三洋さん

Mitsuhiro Ishibashi



経歴

静岡市葵区生まれ。県立静岡高校卒業、京都大学法学部卒業。1966年、日本生命保険相互会社入社、ロンドン事務所長、ニューヨーク事務所長、取締役千代田総支社長などを経て、常務取締役、代表取締役専務、代表取締役副社長、2005年、代表取締役副会長に就任。10年、代表取締役副会長退任。72歳。

この間、大阪商工会議所副会頭などを歴任。現在、株式会社静岡銀行と株式会社村上開明堂のそれぞれ社外監査役を務める。

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

経営に大事な生の声

控えめ、誠実な人柄が言葉や所作からにじみ出る。就職は迷わず日本生命を選んだ。バブル崩壊後の日本の生命保険業界を支えた一人として、その実力を評価する声は今も多い。

バブルが弾けたころ、日本経済の中心である千代田、港の両区を担当する千代田総支社長に。「東京のと真ん中というのは、大企業ばかりでなく、中小企業の事業主

さんもおられ、景気に敏感です。取引先を回り、経営の厳しさ、変化への対応の難しさを目の当たりにし、現場の生の声を聞くというのが経営にとって一番大事なことだと強く思いました。首都圏で仕事に携わっている方には特に求めたいですね。」

近年、企業活動のグローバル化が進む。石橋さんは「それ自体は良いことだ」としながらも、「同時に、日本的な経営の良さを持ち続けることも忘れないでほしい」と願う。「企業は法人という人格を持つ」ビ

ト」であって、モノとか商品ではないんです」。

災害対応NO.1都市に

「私は静岡そのものですから」。静岡への愛着、こだわりは人一倍強い。「東京に近い静岡のメリットや、特色を生かし、確立し、首都圏との連携でまちづくりを進める方策を検討してほしいですね」。

一つは、日銀を含め、静岡市にある国の出先機関の受け皿となる組織をつくり、静岡の盛り上げ、振興につなげていけないか、という構想。規模は違っても、似たような構想は関西財界が主導して実現した「関西広域連合」がある。

「それと、安心して静岡に来てもらうため災害対応は全国一、ナンバーワンのモデル都市ですね。災害に「万全な都市のイメージを持たせる意味は大きいと思います」。

その上で、首都圏から人を呼び込む取り組みの強化策として、商工会議所が中心となり、静岡の伝統産業や水産加工、精密機械工場をはじめ農林漁業にまで広げた見学・体験ツアーなどの、より積極的な企画、推進を挙げる。「施設を見学するだけでも楽しいですから」。

静岡市内の企業の社外監査役を務め、毎月静岡へ通う。「育ててくれた静岡に少しでもご恩返しになればと引き受けさせていただきました」と明快だ。

(文：長田義明、写真提供：石橋氏)